

児童部会

(金森部会長)

それでは児童部会を始めさせていただきます。

最初は、「事業計画骨子案について」事務局から説明をいただきます。

(事務局)

お手元の「資料3（野々市市子ども・子育て支援事業計画（骨子案）」をご覧ください。

新年度から事業計画の策定を行い、今年度中に案を作成します。今回お示した骨子案は、今後の作り方の案になり、内容はこれから肉付けを行っていきます。

計画の趣旨等にご意見をいただけたらと思います。

(金森部会長)

お手元の資料をご覧ください、ご意見等ありませんでしょうか。

(事務局)

内容はこれから肉付けを行っていきます。今後、案という形でお示しできればと思います。

(金森部会長)

これから肉付けとのことですが、事業計画の内容については、事務局で取りまとめることとなりますが、前回、議論した中で、様々な意見がでました。その他要望も含めて意見を出していただければと思います。どうでしょうか。

(事務局)

資料の内容についてですが、骨子案にあります6頁目、「第3章 子育て支援施策の実施状況」の放課後児童クラブの項目で平成26年度540人とありますが、すでに600人を超える利用になっています。

(金森部会長)

540人を突破してるのですね。

(事務局)

はい。今は、650人ぐらいです。退所する子もいますが、年々、4年生以上の子が増えています。1年生以上の入所も、特に、富陽小校下では増えています。

(金森部会長)

今後が増える可能性はありますか。

(事務局)

アンケート調査の量の見込みを見ますと、大きな数字になってしまいます。

これは、国から提示された計算式に当てはめた数字です。そこまではいかないと思いますが、やはり、平成31年度には700人前後にはなるのではないのでしょうか。今はピークかもしれないませんが、今、12クラブありますが、各校下、2から3クラブで行っています。放課後児童クラブの条例ができれば、各児童に対する1人1.65㎡の数値を持ちなさいとなっています。

(金森部会長)

委員、そのことに関してご意見はありますか。

(委員)

施設的には、おおむね40名というところが出ていますが、その幅をどうとらえていますか。

(事務局)

これまでの国のガイドラインでは、70名程度までとなっていました。

(委員)

1対70名では困難です。40人程度がよいのですが、困難ですか。

(事務局)

そのことも含め、計画を考えてゆく必要があると思います。

(委員)

トイレとかの専用スペースもあるので、子どもの実態に即した数値をみていただきたいと考えます。子どもが帰ってきて、安心できるスペースが必要です。狭いと良くありません。ゆっくりできるスペースが必要です。ただ広いと良いという訳でもありません。

(事務局)

3歳以上児だったら、保育園でも1人1.65㎡、0才だったら1人3.3㎡、のはずです。それに合わせるために1人1.65㎡、であったと思います。それを考えると、施設整備を検

討していかないといけないと思います。

(委員)

親のニーズ・願いをくみ取っていただいて、子どもがどのような生活をおくるのか、子ども主体に考えていただきたいと思います。ゆっくりした子もいれば、活動したい子もいます。また、近くに公園があれば良いと考えます。言い出したらキリがないですが、トイレとか階段とか除いて、1人当たりの面積を考えていただき、本当に生活する場所の充実をお願いします。

(金森部会長)

金沢では、子どもの数も減りつつあり、県庁周辺は増えてきています。

それに比べて野々市は、全体として増えている状態です。ある程度は、子どもの人口増は続くのではないのでしょうか。

充実した施設は、まだまだ出来るのではないかと思います。子どもが豊かに活動できるスペースはあったほうがよいと考えます。私の家の近くの「きのこクラブ」は広くて良いと感じています。

(事務局)

きのこクラブは、本町6丁目で、御園小学校の校下ではありません。前は、御園小でしたが、校区変更により今は野々市小学校の校下になりました。

(金森部会長)

変更になったら、学童も変更になるのですか。

(事務局)

はい。ただ、「カメラヤクラブ」だけは、御園小校下と野々市小校下を含んでおります。スクールバスも時には、そちらによって行ってもらうようになっています。

(金森部会長)

3章での問題として、量的なこと、1施設での子どもの活動スペースの充実のことが出ました。その他ございますか。

(委員)

金沢でもあると思いますが、学校を放課後児童クラブとして活用することはできないのでしょうか。

(事務局)

学校の余裕教室があれば、使うということもありますが、現在、野々市市では余裕教室がほとんどない状態です。若干、菅原小学校で児童数が減ってきていますが、他の用途に利用しているため、使用は難しい状況です。

(委員)

もし、利用できるのであれば、学童で児童数が多くなった場合は、学校を利用できると良いと思います。

(事務局)

利用が多いということは、学校の生徒数も多いということになります。

余裕教室がなかなか取れないのが実情です。県内では能登の方でいくつか学校の教室を使っていると聞いておりますし、都会では多いようです。

(委員)

学童で、学校へ行っているとの話を聞いたことがあります。

(金森部会長)

学童側からすると、教室で行うことはやりづらいところもあるようです。学校内は静かにしないといけないのこともありますし、いろいろな制約が学校側からくるのでやりづらい面もあるようです。

(委員)

白山市さんのように、同じ敷地内に建ててもらえると良いと思います。

子どもにしても、教室で行うと、学校と学童が同じ場所になってしまうので、嫌がるのではないのでしょうか。

(委員)

確かに、白山市ではいくつかそのような建て方をしています。学校が終わってからの、子どもの移動を考えると、良いと思います。

(金森部会長)

そのように別にすることは、良いに越したことはありません。緊急的にはありえると思います。

今、野々市市で新しい図書館の話がでています。子どもたちの居場所的な図書館として、充実を図っていくなど、そのようなことは検討されていますか。

(事務局)

白山市では、図書館の中に児童館があります。今後、市としてもそのようなことが検討されるのではと思います。

(委員)

白山市の図書館の中の児童館に聞いたところ、土・日は、300人を超しているとのこと。子ども図書2階の一角に、スペースがあります。

図書館に児童館があることを知らない方が、図書館を利用することで児童館の存在を知ることができます。児童館に遊びに来る子供たちが、図書館を利用するという、相乗効果が現れていると聞いています。

(金森部会長)

敷地にどれぐらい余裕があるか判らないが、是非、図書館建設にあたり、大人の発想だけでなく、子どもたちをどう豊かにするかという意味も含めて、同時に検討されていくことを望みます。

海みらい図書館ですが、金沢市以外の方が結構行っています。白山市・内灘町から来やすいこともあるが、子どもが大勢来るのは良いと思います。

その他ありませんでしょうか。

資料8頁、第5章 計画の基本的な考え方について、「3 基本目標」を具体化したものが第6章・第7章です。第6章・第7章で具体化したことが述べられているということですね。

(事務局)

はい。そうです。

(金森部会長)

肉付けが無いので、なかなか意見が出てこないですが、PTAからは何かないですか。

(委員)

「第6章 支援事業計画 【任意記載事項】 6子どもに関する専門的な知識及び技術を要する支援に関する県との連携」について、どういったことを想定していますか。

(事務局)

1から4に関しては、必須記載事項ということで、国の方からの指示で、計画に盛り込まなければなりません。5から7の任意記載事項は、県との連携など、計画に盛り込んで

も良いものとしております。6の「子どもに関する専門的な知識及び技術を要する支援に関する県との連携」は、県と連携をして何かできないかといったこととなります。

(委員)

例えば、行政以外の組織の連携を計画に入れることを考えていますか。児童相談所との連携はどうですか。

(事務局)

児童相談所との連携も入っているように思います。

(金森部会長)

県の方で、各自治体と連携して行うということはあるのですか。

(事務局)

計画はまず各自治体で作成します。その計画に基づいて、その後、県が計画を作成します。

(金森部会長)

各自治体が作成した後、県がそれを見て作成するということですかね。

(事務局)

はい。そうです。

(委員)

指導員等の研修も含めての連携ですね。

(事務局)

学童の指導員・支援員等の知識の向上に伴った、県との連携ということも含まれていると思います。

(委員)

放課後健全育成事業の支援員の研修も国から定められています。

(委員)

児童館の職員はどうですか。

(事務局)

まだ、そこまでの定めは無いです。

児童厚生員については、施設に2年以上勤めて、県の研修を受けたものという条件があるとのこと聞いています。

(金森部会長)

今、私のところにきている講演依頼についても、様々です。

金沢で独自らしいですが、この前は、パパっこ倍増月間というのがありました。父親の子育ての参加を倍にするということで、150人はいたと思いますが、公民館・保育士・児童館等の職員が主でした。

能登地区と金沢地区と加賀地区の3か所で虐待の研修を行う依頼も受けております。児童相談・民生委員等そちらの方向けだと思います。

この計画ができて、もう少し1本化されるといいですね。この計画の基本目標というのは、野々市独自ということですね。

(事務局)

野々市独自のものとなりますが、市の総合計画に基づいての実行計画ですので、総合計画の内容を実行的に行っていくものとなります。

(委員)

連携先として、弁護士会との連携も、どうでしょうか。

(事務局)

市の虐待の対応では、弁護士の先生が入っていたと思います。虐待だけでなく、別の観点でも必要と思います。

(委員)

一般の父兄が困ったときに、相談できる場所が浮かびません。そういったときに利用できればと思います。

(金森部会長)

資料7頁「第4章 市民の子育て支援ニーズ」の内容にいろいろありますが、教育相談・子どもの居場所の問題は、野々市市はどこで行っていますか。

(委員)

市の教育センターで行っています。

(金森部会長)

訪問者はどれぐらいですか。

(委員)

今は常時、中学生が2名。たまに来る子が3・4人います。少ないですね。こちらが把握しているのはそれだけです。あとは、家で引きこもりがちの子が10数人います。定期的に家庭訪問等していますが、保健室登校とか結びついていない状況です。

(金森部会長)

少ない方ですね。

(委員)

そうですね。

(委員)

放課後の居場所ですが、鍵をぶら下げている子が、1年生でも多くみます。親も鍵だけ預けていくのは心配です。常時であれば、学童に預けたりということになりますが、そういった場合の時だけの相談場所が欲しいと思います。ちょっと子どもを預けれる場所があると良いと考えます。

(金森部会長)

確かに、鍵を持っている子どもをみたら、家は留守だと判ってしまいます。危険度は高まります。親にもしっかりすることを教えるのも大事だが、学校もそういった子が危険だから、友達に頼んだり、児童館に案内することも大事と思われれます。

(委員)

実際、児童館でもそういったことがありました。学童に入れるほどでもなく、早い日・遅い日もある親には、学校の先生から児童館を案内することもあると聞いています。毎日来なくても保護者の都合で、児童館を利用することもあります。元来、預かる場所ではないが、子どもの居場所として、柔軟に対応しています。費用発生もあるので、ファミリーサポートを使用することなく、網渡り的な対応が見受けられます。児童館としても、子どもの場所を確保していくことも重要だと思いますが、学童とも連携しつつ横のつながりが重要と認識しています。

戻りますが、子育てに関して気軽に相談できるという方のパーセンテージが高いと思います。未就園児親子さんは結構利用されますが、たくさんの支援センターもありますが、

野々市の新しい方は、お里が遠い・父親は帰りが遅いという方も多いので、身近に相談できる方がいないが、自分に合った場所を保護者の方は選んでいらっしゃる。学童期に関しては、子どもの背景がわからないので、児童館として何かできることはあるのではないと考えつつも、なかなかアプローチができない状況です。

(金森部会長)

新1年生の場合、PTAが主体になりながら学校と学童とで、どう行えば支援体制をとれるのかを設定していかなければと感じました。細かなところまで、出来れば良いと感じました。

縦横の関係だけでは不十分ですので、斜めの関係をどう作るかはずっと課題にはなっていますが、児童館・学校・学童のように固有名詞が出てくるような連携を聞いて素晴らしいと感じました。

1年生は入ったときに戸惑いが一気に始まりますので、学年PTAの独自性を持たせて行うことを支援していくことも良いのではないかと思います。

(委員)

小学校下に児童館が無いところもありますね。

(事務局)

野々市小校下はありません。お手元の資料ですが、判り易くと考え色分けを行いました。その資料を見ていただきますと、逆に、菅原小校下では、本町児童館・中央児童館と2つあります。御園小校下では、学校から遠いですが、つばきの郷児童館があります。

(委員)

自由に好きなどころに行けるが、どれぐらいの人がどう通っていますか。

(事務局)

中央児童館周辺の方は、野々市小校下・富陽小校下・菅原小校下・金沢市の方からもたくさん利用されていると聞きます。つばきの郷児童館は白山市の方も来ていると聞きます。

(委員)

中央児童館に関しては、野々市小校下・富陽小校下・菅原小校下また、行事によっては御園小校下のかたがみえます。子どもたちだけでは来館できませんから、土曜日・夏休み・興味を持った行事があれば来ます。1年生でも自転車に乗って活動することができます。それも心配です。あまり遠くなると、歩けないですが、自転車では交通事故も心配です。

(金森部会長)

のっティの子ども料金はどうなっていますか。

(委員)

大人と同じ100円です。

(委員)

たくさんのお子さんが利用することは良いことですが、安全面が心配です。

(金森部会長)

子どもたちの安全をどうするか、とりわけ1・2年生の安全をどうするか。という問題があります。野々市市では自転車教室とか行っていますか。

(委員)

はい。小学3年生の時に、全校で行っています。

(金森部会長)

1・2年生も危ないですね。

(委員)

学校から帰ってきてから家を出て行くので、安全の心配はあります。

(金森部会長)

どこかで安全というものをうたえたらいいなと思います。道路にお年寄りが子どもの為に出られて、頑張っていらっしゃいますが、肝心の子どもが安全を確認していません。危険に対してどのような支援をしていくのか、ということがこれから大事になっていくと思います。

あと何かございますか。

(委員)

校下に児童館がないこと等も事業計画に載せていくことを検討していければと思います。基本目標にあります「目標2 子どもが心豊かにたくましく育つ環境づくり」ということも考えて議論していければと思います。

(金森部会長)

例えば、児童館を利用する1年生はできるだけ自転車を控えてください。その場合はの

っティを無料にします。など、児童館に限定してもよいから進めてみるというのもどうでしょうか。

(委員)

のっティの利用は良いと思います。

(委員)

昨日、マナビィフェスタの会議がありました。そこでも子ども会としてののっティの利用を検討しました。

(委員)

児童館の利用について、学校別の利用者数を考えると、野々市小学校は少ないです。舘野小学校は押野児童館に集中します。菅原小学校は中央児童館に多く、富陽小学校はふじひら児童館の利用が高い、御園小学校はどこも少ないですが、野々市小学校は生徒数が多い割には利用が少ないと感じます。近くに児童館が無いからとういことも要因の1つと考えられます。近いところがあれば、また、利用が増えるのではないかと考えます。

また、子どもたちの個々の力が弱まっているのではないかと考えます。団体に動くときは子どもたちの力を発揮することもあります。小集団の時は、生活力・遊びの力があるのか疑問に思う時もあります。児童館において、そのような力をつけさせることも考えて行かないといけないと思います。いつも同じグループでなく、違うグループで群れて遊ぶことも学ばせること等、子どもの力をつけさせることも、子ども・子育て会議の中で、システムとか目標とかを具体化するなかで、子どもにとってどうあるべきか、もう少し必要と感じます。

例えば、のっティですが、行事の時に1人1人のっティのチケットを渡すのですが、チケットを入れてこない子供がいます。公共施設の乗り方、チケットの使い方等、いろいろなことを考えていく力が必要と感じます。

(金森部会長)

子ども全体でいえば、金沢市では「キゴ山冒険隊」とか、「自然学校」もあります。そういう意味では、個々が意識的に行わないといけないと思います。意識的に丘を登ったり、駆け下りたり等、危険に対する感受性を鍛えることを、このような子育て支援で考えていけないといけないと思います。

(委員)

児童館で木登り・田んぼに入ることを行っています。怪我したら誰が責任をとるのかと考えたら困難だが、学童期に子どもにとって何が大切なのかを指導員が判っているかが

大事です。木に登ることを上級生が下級生の子どもたちに教えていることは良いことと思っています。そのような触れ合い、経験を子どもたちにさせてあげたいと思っています。ただ、そのような指導員も付けられないということがあります。

また、公共のルールも教えていくようにしています。年間計画を立てるときそのようなことも研修計画に入れていただけることを望みます。

(委員)

私も押野児童館にいた時に、いろいろ行いました。夏休みも「まんでおもしろいぞ」という運動遊びを行いました。学童・児童館・どちらにも属さない子供も遊びました。年に1・2回ですけれども交流を持つということは子どもの情報共有にもなりますし、ちょっとした事で声を掛け合うことは良いことと思います。子どもの継続した育ちを地域で見ていくことが必要と思います。そのような良い情報をみんなで共有できるようにしたい。みんな平等になるように指導できると良いと思います。

(金森部会長)

こうゆう事業計画の中で、恒常的に子どもをトータル的に強く・豊かにしていくための具体的な活動が行えるようなことを望みます。

例えば、農協とかにも入ってもらって、各児童館に泥んこ用の田を提供してもらうようなことも良いと思います。実働でできることをそれぞれの機関で検討していただき、学校と児童館と学童から、要望できるようなこともよいと思います。良い実例を学校と児童館と学童から提示していただき、具体化していければと思います。

(委員)

いろいろな経験ができるのは良いことですが、親により意見が様々なため、学校からもそのようなことを促して行ってほしいです。

野々市はアパートも多く、家の前で水遊びをするところがなく、理解ができない親もいますが、子どもにとっては必要と考えます。

(金森部会長)

他によろしいでしょうか。

(委員)

放課後児童クラブが民営化になってきているが、保護者のほうでも行っているところも残っています。各特色はありますか。その事についてはどうですか。

(事務局)

現在、野々市では12クラブあります。そのうち7つが社会福祉法人が運営しております。それぞれに即した運営をしていただければと思っております。

(委員)

保護者のニーズに即して、子どものニーズに即してしないのではないかと聞いたことがあるが、そこはどうかでしょうか。

(金森部会長)

難しいですね。前回課題になりました1つに「子育てに関する親の繋がりをどう強めるか」というのがありました。保護者会すらないという学童もあります。それは非常に残念です。みんなが汗をかいて子どもの幸せを考えよう・話し合いをしよう、とゆう状況もあります。いろいろな経営形態があってもいいですが、子育ては子ども自身が自分で幸せをつかむことがゴールなので、そのための親も伴走者であってほしい。そこが弱まっては困ると思います。競輪場が作られるという話が出た際は、素早い対応で中止になった。それも1つのプラス材料で、子どもの幸せに全員で力を合わせることができました。この計画のなかで強く打ち出されることを望みます。

あとよろしかったでしょうか。事務局、何かありますか。

(事務局)

野々市市は9月議会に学童の条例を上程する予定でいます。条例の内容は、国に従うべき基準は国に準じますが、参酌すべき基準は、野々市市の状況に応じて考えていきます。集団の規模も国は40人とありますが、野々市市はどうか、次回、条例の案を出したいと考えております。その際に、ご意見等をお願いしたいと思います。

(金森部会長)

あとよろしかったでしょうか。

本日は、お忙しいところありがとうございました。

これで第3回目の子ども・子育て会議を終わります。

以上